

1. すべての家庭の日常生活に欠くことのできぬ生鮮食料品が、その供給において不安定であり価格変動がはげしく、しかも年々上昇傾向にあることは、わが国における生活問題のうち、早急に解決を要する最も緊要なものの一つであるとして、政治的また経済的關係方面でその対策に鋭意取り組まれている。このような動向の中において、各家庭自体にあっても、生産および流通機構における安定価格、適正価格の確立への努力を要望すると共に、その消費のしかたの改善工夫に撓みなき努力を傾け、相共に問題解決の方策を見出さねばならぬと考えるのである。

2. 生鮮食料品の流過程におけるその流通量および価格変化を観察し、特に消費者との接点にあたる小売について問題点を分析する。

3. 生鮮食料品を取扱う小売店は、従来においても、単なる流通機能のみでなくある程度の調理機能をも果たしていたが、今日においてはこの機能が一層要求されていることが指摘される。家庭における食料備蓄の浅さは生鮮食料品の供給の不安定性を緩和する力を弱め、家庭における調理機能の縮小は小売マージンの高率化の要因となることが推測される。現在の趨勢である家事作業の「社会化」という合理性の導入の中に潜む問題点の究明と人間生活に必要な「生命ある物質」の効果的な摂取ということの意義の認識とその実現とを、改めて真剣に考えねばならない。

D-10 家庭における生鮮食料品の消費態度に関する研究（第1報）

一特にその価格安定および引下げ方策  
に対応すべき家庭消費の問題点の分析一